

## 試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：中型種を用いた赤ピーマンの栽培に適した主枝の仕立て法			
[要約] 緑ピーマン収穫用中型種「京鈴」で、赤ピーマンを収穫するために最も適した主枝の仕立て法は、収量が多く、作業性の良い株間 30cm・主枝 2 本仕立てである。			
フリーワード 赤ピーマン、中型種、株間、着果負担、仕立て法			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・北総園芸研究所・砂地野菜研究室 協力機関 海匠農林振興センター、JAちばみどり		
実施期間	2007年度～2009年度		

### [ 目的及び背景 ]

緑ピーマン収穫用品種は通常の収穫適期から追熟させることで赤ピーマンを収穫することができる。赤ピーマンはパプリカに比べて果肉が薄い。しかし、追熟には強い着果負担がかかるため、緑ピーマン栽培での慣行である株間 60cm・4 本仕立てでは草勢が衰え、収穫の停滞期間が長くなる。そこで、赤ピーマン収穫時の着果負担を軽減できる主枝の仕立て法を明らかにする。

### [ 成果内容 ]

- 1 株間 30cm・主枝 2 本仕立ては慣行の株間 60cm・4 本仕立てより 2 L 及び L 品の割合が高く、収量が多い（図 1）。
- 2 2 本仕立ては、4 本仕立てに比べ、5～6 月及び 9 月の収量が多い。1 本仕立ては草勢が旺盛となり、着果数が減少するため 9 月以降の収量が少ない（図 2）。
- 3 仕立て本数が少ないほど草勢が旺盛となり、整枝作業時間は増加する（図 3）。
- 4 緑ピーマン収穫用中型種「京鈴」を用い、全期間赤ピーマン収穫に最も適した主枝の仕立て法は株間 30cm・2 本仕立てである。

### [ 留意事項 ]

- 1 着果性及び収量性が良いが、草勢の低下しやすい品種である「京鈴」を用いた成果であり、他の品種を用いる場合は再検討を要する。
- 2 ベッド幅 80cm 通路幅 70cmとする。
- 3 定植後、生育の旺盛な 2 本の枝を主枝とし、残りは 2 節目で整枝する。
- 4 整枝は主枝の摘心まで行い、その後は放任しても問題ない。

### [ 普及対象地域 ]

県内全域

### [ 行政上の措置 ]

### [ 普及状況 ]

[ 成果の概要 ]

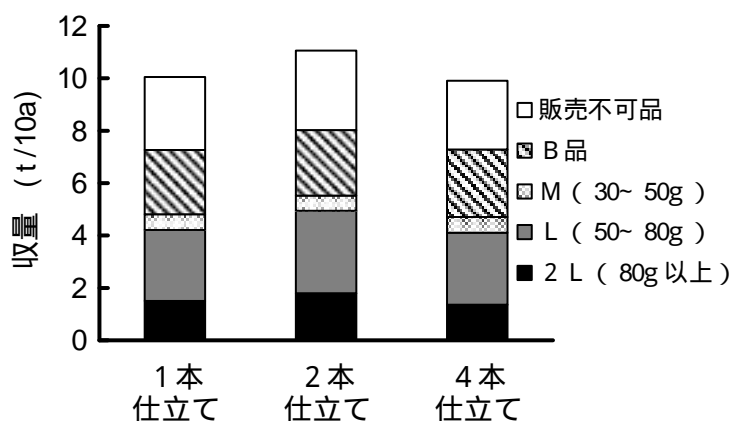


図1 赤ピーマンの規格別収量

注1) ベッド幅 80cm 通路幅 60cmとし、1本仕立ては株間 30cm<sup>2</sup> 条植え、  
2本仕立ては株間 30cm 4本仕立ては株間 60cmの1条植えとした。  
2) 収穫期間は平成2年5月21日から11月26日までである。

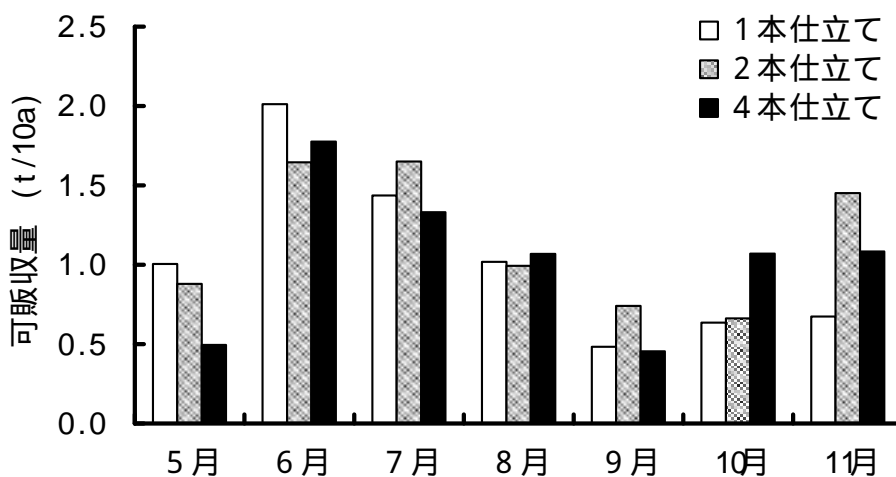


図2 月別の可販収量

注) 可販収量は2 L、L、M、B品の合計である。

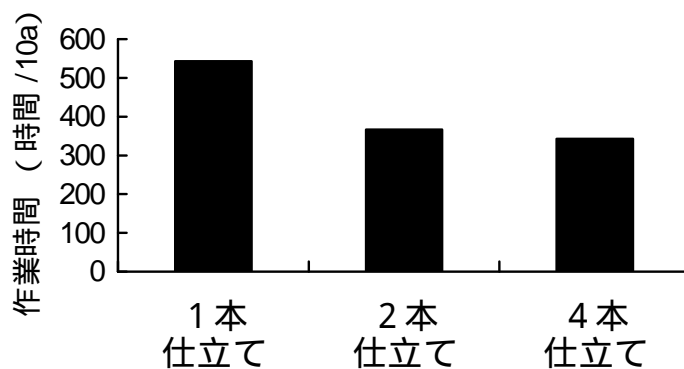


図3 総整枝作業時間

[ 発表及び関連文献 ]

[ その他 ]